

# ふらぐ

この世界には  
ロマンがある

¥0  
TAKE FREE

**赤馬館で  
使える商品券**

1,000円分が  
当たる!!

詳しくはウラ面を  
ご覧下さい。

目からの  
うろこ

▼ひととまちとの交差点Vol.11  
▼ふらぐニユース

伝え続ける姿勢と覚悟

ふらみさんに相談したらいいじゃない!?

## 伝わるチラシの作り方

# ふらみさんに 10日言ったら いいじゃない!?

ここは  
メイトム宗像  
NPOセンター

今日も悩める  
市民が  
相談に来ます

## 第3話 「伝わるチラシの作り方」

私は  
市民活動団体で  
広報を担当して  
います

フユヒコさん  
会社員

今度イベントを  
開催するので、  
参加者募集の  
チラシを作成したい  
のですが…

普通に  
パソコン開いて…  
イベントの  
情報を  
あれやこれや  
打ち込んで…  
気づいたら  
ゴチャゴチャしてて…

いつも  
どうやって  
チラシを作成  
していますか?  
えーと…  
いつも…?

なるほど  
チラシマ  
ズラッ

ごまく  
まごまごなくて  
ちよっと  
見ていただけ  
ない  
でしょうか

えーと  
「情報をぎゅっと  
書き出して」  
みましよう!

### 情報整理チェックシート

- ▼ターゲットは誰?
- ▼伝えたいことは「何」?
- ▼チラシのゴールは?

実は  
パソコンを開く前に  
やるべきことが  
あるんです!

た、  
ターゲット  
…?  
イベントに  
来てほしい  
人のことですね

小学生の  
お子さんと  
その保護者  
さん…こと

▼ターゲットは誰?  
小学生のお子さん

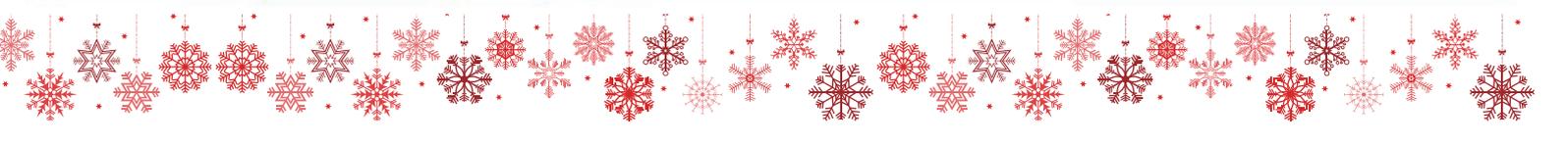
情報の  
整理です!

日時  
場所  
参加費  
ターゲット  
内容  
問合せ先

紙製の  
ゴールテープ  
…?  
チラシの  
ゴールって  
なんでしょう?

えっと…  
チラシを  
見た人に  
どう行動して  
ほしいか、  
という  
ゴールの  
目標の  
ことです

今回は  
イベントに  
参加申込して  
もらうんですね!





## チラシデザインのコツを プロから学ぶ

宗像市市民活動・NPOセンターでは、情報発信や企画のつくり方など、市民活動やまちづくりに役立つさまざまな講座を開催しています。今年9月に開催した講座では、デザインの第一線で活躍する毛利清隆さんからチラシデザインの基礎を学びました。講座の内容をまとめたレポートを下記ページで公開していますので、チラシ作りの参考にしてみてください。

### 「伝わるチラシ デザイン講座」の レポート



「伝わるチラシデザイン講座」の様子

## チラシにアレもコレも 詰め込んでいませんか？

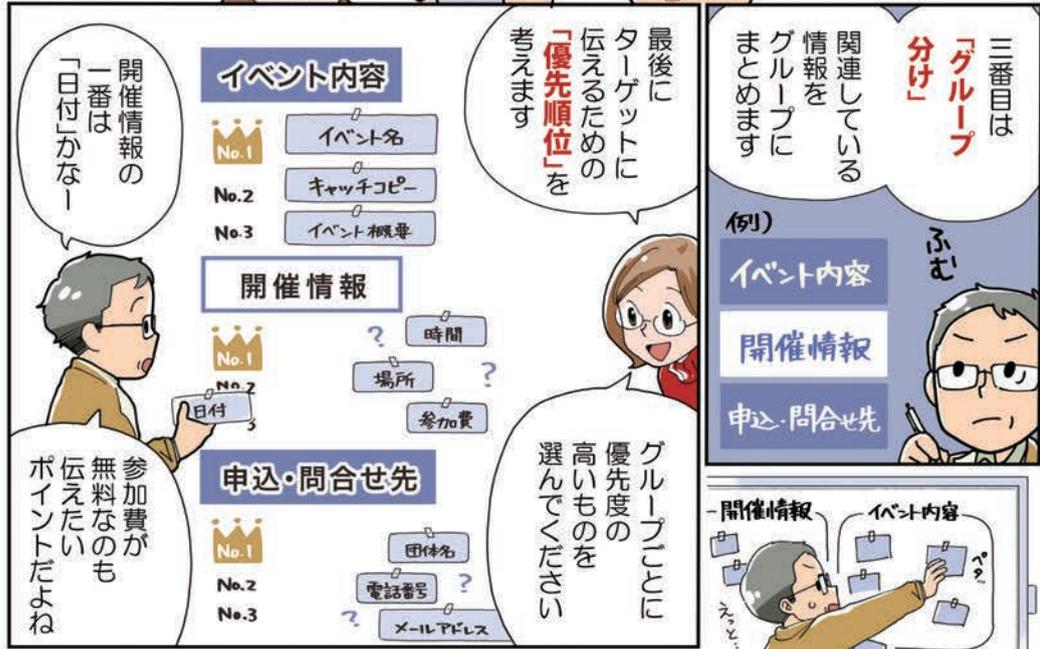
「どの情報も必要な気がするから」「スペースが余っているから」とチラシにびっしりと情報を詰め込んでいませんか？ チラシを作る前に「どんな人に一番チラシを見てほしいのか」「チラシを見た人にどう行動してほしいのか」など、まずは情報を整理することが大切です。漫画の中で紹介している「情報整理チェックシート」はPENTAGONのホームページからダウンロードできますので、ぜひご活用ください。

### チラシづくりの 前に!「情報整理 チェックシート」



#### 問合せ先

宗像市 市民活動・NPOセンター  
[運営]一般社団法人 PENTAGON  
TEL:0940-36-0311 (平日9:00~17:00)  
MAIL:info@pentagon67.com



# ひとまち交差点

宗像のまちで秘かに活動する魅力的な人。その「ひと」が「まち」と出会い、交わるきっかけを、ふらぐ編集部のアンドウが取材してきました。



ふらぐ編集部  
アンドウ

日本海沿岸の海女発祥の地である宗像市鐘

崎。かつては300人ほどいた海女さんも、今では4人に。そんな鐘崎で、海女文化を学び伝える「宗像のあまちゃん」として活動をしている林さんと本田さんにお話を伺いました。

**アンドウ：宗像市が地域おこし協力隊として海女さんを募集しているのを見て、応募しようと思ったのはなぜですか？**

**林さん**：私はサーフィンが好きで毎週のように行っていたので、「もっと海の近くに住みたい」とずっと思っていました。20代の頃「海女さんを仕事にするのもいいな」と漠然と考えていた時期もあって。それから数年後、たまたま宗像市で募集しているのを知って、勢いで応募しました。  
**本田さん**：私は大学の時に住んでいた寮が木造の築100年以上のすごく古い寮だったんですが、そこで歴史あるものを守ることの大切さを学びました。海女漁の伝統を守り受け継ぐことに携われるなんてすごく価値があることだと思ひ、やつてみようと思募しました。

**アンドウ**：これまでの海女修行の中で大変だったことはありますか？

**林さん**：私はびっくりするくらい息が続かなくて。初日に見よう見まねで潜ったんですけど、「やばい、私これ潜れないかもしれない」と思ったことを今でも覚えています。最初は潜ってもすぐに上がってきたでしたね。

**本田さん**：私も「体力でカバーできるんじゃないの」と思ってたんですけど、全然そんなことなく。海女さんたちって「この岩の影にアワビがいそう」と、姿が見えてなくても獲ってくるんです。このエリアはここにいるとか、この石は目印として覚えておかなきゃいけないとか、海の中が地図になって全部頭の中に入っているんです。本当すごいことです。

**アンドウ**：海女漁以外の活動はどのようなことをされていますか？

**林さん**：私は元々草木染めに興味があったので、ムラサキウニの殻を使った染め物に挑戦しています。大変なんですけど、ウニのトゲから色をとって染めるときは昔カフエで働いていた経験を活かしてわかめのシフォンケーキを作ったり、保存がきく海産物の瓶詰めを試行錯誤しながら作ったりしています。

**アンドウ**：2019年6月に開催された「マリンワールドで海女ショー」は本田さんが企画されたそうですね？

**本田さん**：私が古い海女衣装に興味があった。引退された海女さんからお借りすることができたので、レプリカを自分で作って持っていたんです。それで、その海女衣装を着て漁をしているところを見てもらいたいと思い企画しました。サザエを水槽に入れてマリンワールドの方とどっちが多く取れるか競争したり。子どもたちもたくさん見に来てくれて、やつてよかったです。またやりた

林 由佳理さん  
本田 藍さん  
地域おこし協力隊  
「宗像のあまちゃん」



2018年4月より地域おこし協力隊「宗像のあまちゃん」として活動をはじめ。海女漁の修行に励む中、海女文化や鐘崎の海産物の魅力を伝えるさまざまな活動を行っている。林さん(写真右)は、岐阜県出身。本田さん(写真左)は、滋賀県出身。

**アンドウ**：これからの活動について教えてください。

さい。

**林さん**：2020年3月に鐘崎の海産物や旬の食材を使った料理を提供していた「あまちゃん食堂」が終わったんですが、定番で提供していた「アナゴのかき揚げ丼」の作り方をオンライン配信しようって話が出ています。食材のアナゴは「鐘の岬活魚センター」に買いに行ってもらい、あとはオンラインでつながる。そんな料理教室を11月に開催予定です。

**本田さん**：漁師の奥さんなど、鐘崎にはパワフルに日々を過ごされている人がたくさんいます。鐘崎の海の幸を上手に活かした料理を知っている方たちが、埋もれてしまっているのは本当にもったいない。これからオンライン配信のための設備やノウハウを少しずつ蓄積して、そんな方達が「発信したい」と思った時に気軽に発信できる場がくれたらいいな、なんて考えています。

”あなたにとつての交差点は、どこですか？”

”3年の任期が  
終わろうとしている、今”



船に乗って海女漁へ



「あまちゃん食堂」で鐘崎の海の幸を提供



マリンワールドで海女ショー

# 伝え続ける姿勢と覚悟



ふらく編集部  
タチバナ

少子高齢化・人口減少など社会の状況は大きく変わる節目を迎えている。行政予算も年々少なくなる中で、行政依存ではなく、市民がお金を出して我が街を良くしていくという動きが生まれている。九州でいち早くコミュニティ財団を設立し、その仕組みを展開する「公益財団法人 佐賀未来創造基金」に話を伺った。

## 3人で始めた財団運営

佐賀未来創造基金は、市民によって創設された佐賀県初のコミュニティ財団だ。佐賀市内に拠点を置き、7人のスタッフで運営している。設立からの7年間で、集めた寄付総額は2億円に近い。主な事業は助成金による団体の活動支援だ。子どもや災害の支援など、多様な社会課題に対処するため、様々な基金を準備し県内の約400以上の団体をサポートしている。

佐賀未来創造基金の設立は2013年に遡る。一見、組織の立ち上げは華々しくスタートしたかのように思えるが、最初は3人での船出だった。活動の原資もノウハウもゼロベースで集めてくる必要があり、簡単な道のりではなかったという。

## 定年退職後からの新たなステップ

立ち上げの中心を担ったのが、専務理事の吉村さんである。定年退職後に社会活動の分野に飛び込んだ。「もともと外資系の企業に勤め、東京や大阪、福岡など転々としていました。定年退職後、生まれ故郷の佐賀に戻り、吉野ヶ里歴史公園でツアーガイドのボランティアを始めました。そこからつながった縁で佐賀市の市民活動プラザでプラザ長を務めることになりました。

前職は畑違いの分野だったので、まったく新しいスタートです」。

社会活動の分野に身を投じるようになった中で、佐賀県での課題が多様化していることに気づいたという。「少子高齢化や子育て、災害など多様化する社会課題にもはや行政や団体だけの力で解決することは難しくなっています。また団体の活動資金を補助金や行政へ依存しないための仕組みが必要だと感じました」。

その話を佐賀県内の中間支援団体の人々と事あるごとに話をしながら行き着いたのは、市民からの寄付を財源にしたコミュニティ財団の運営だった。こうして、佐賀県初のコミュニティ財団の事務局は、吉村さんと大学卒業した若者2人によってスタートした。「財団を運営するノウハウはありませんでしたので、フアンドレイジンや地域活動に詳しい人から知見を得たりしました。すでに取り組みを開始していた沖繩・岡山・京都での事例を調査して参考にしました」と吉村さん。運営に必要な生きた情報は、他地域の事例やその分野に精通している人から謙虚に学んだ。

立ち上げからは、事業に必要な寄付集めに奔走した。街頭に立つて募金をお願いしたり、直接お願いするなど駆けずり回って地道に寄付を集

めた。その努力の甲斐あって、設立初年度に集めた額はおよそ2600万円。半分の1300万円は自分たちで集め、残り半分は、マッチングギフト<sup>※1</sup>として佐賀県が補助してくれた。

2013年の11月には、一般財団法人から公益財団法人へ。単に寄付を集めて配るだけの存在にならないことにも気をつけ、CSO<sup>※2</sup>のスキルアップや学びを目的とした研修事業や寄付文化のボランティア活動の普及啓発など様々な事業づくりに着手した。

広報活動にも余念が無い。フリーペーパーの企画で代表の山田さんと県内の首長との対談の記事を掲載するなど、財団の取り組みを伝える努力を怠らないようにしているという。寄付集めや広報に関して吉村さんは「寄付を集める時に大事なのは恥ずかしがらないことです。目的があつて寄付集めをしていることを、腹をくくってお話し、寄付をいただいた後はお礼や報告をきちんとする。そして、活動している姿を見せることも大切になっています」と語る。

※1 マッチングギフトとは  
 団体が集めた寄付と同額を佐賀県が補助金として交付する。近年、CSRなどで取り入れる企業も増えている。



主催するセミナーの様子



事務所に飾られている表彰状の数々

プロフィール 公益財団法人 佐賀未来創造基金 専務理事 吉村 興太郎

佐賀市出身。外資系企業で東京、大阪、福岡などで勤務。定年退職を機に地元佐賀へ戻り、市民活動分野へ。佐賀市市民活動プラザのプラザ長を務め、その後佐賀未来創造基金を設立。専務理事として組織の基盤を支え続けている。



ウェブサイト▶ <https://saga-mirai.jp>

## 佐賀を良くしたい思いが 浸透する佐賀県の風土

佐賀未来創造基金が継続して活動を続けられる背景には、佐賀を良くしたいという市民の思いを育む豊かな土壌がある。佐賀では、NPOやボランティア団体など活動する主体をひとまとめにCSOとして表現する。古川前知事の時代に取り入れ、今となってはそれが県内全域に浸透している。「佐賀県は様々な組織とのコラボレーションした取り組みに積極的です。組織の枠を超えて一緒に活動しよう」という風土があるように感じます」と県の担当者。

その思いは、形としても具現化している。佐賀県では、CSOの寄付につながるふるさと納税の仕組みを2011年から全国に先駆けて開始した。現在89団体が登録し、年間の寄付金収納額は8億円を超えている。登録団体数の増加に伴い、寄付金額も年々増えている。佐賀がいち早く取り入れたこの仕組みは、全国の自治体にも広がってきているという。



感謝の気持ちを伝える「さがつくAWARD」

他にも、全国的に活動するCSOを佐賀に誘致するという取り組みも進めている。企業でなくCSOの誘致は、全国的に見ても珍しい。

2015年に県外CSO誘致事業をスタートし、現在まで10団体を佐賀県内に誘致している。拠点を佐賀に移し人を雇用した場合に使える補助金を準備するなど、受け入れの体制も充実している。

### ※2 CSOとは

Civil Society Organization (市民社会組織)の略で、NPO法人、市民活動・ボランティア団体に限らず、自治会、町内会、婦人会、老人会、PTAといった組織・団体を含めて「CSO」と呼称している。

## 豊かな土壌の上に育まれた 財団の事業

今年度は新型コロナウイルスや豪雨災害により、佐賀も深刻なダメージを受けた。その難局を乗り越えようと奮闘するCSOの活動を支えるべく、県と協働でのクラウドファンディングを実施。集めた資金で、CSO持続支援金の取り組みや災害基金助成などにもいち早く着手してきた。こうした財団の取り組みは外部にも評価されている。今年1月には「ふるさとづくり大賞」を受賞し、9月には「第11回日本ファンドレイジング大賞」にも輝いた。多様な事業を迅速に進められるのは、設立から貫いて軸がブレることなく、発信し続け伝える努力を怠らず、地道に実績を積み重ねてきたからに他ならない。

「CSO、企業、行政と手を携えて、佐賀に住むみなさんの暮らしを良くしたいというのがモチベーションです」と吉村さんは笑顔で語る。

## Furagu News

# まちづくりの基本指針「宗像、カタロウ」

参加・参画・協働による魅力あるまちづくりの基本指針「宗像、カタロウ」のダイジェスト版を12月に発行します。宗像市ホームページからご覧いただけます。

## 宗像、カタロウとは？

宗像市のまちづくりは、これまで多くの市民の力＝『市民力』によって支えられてきました。この『市民力』はこれからさらに魅力あるまちに発展していくために、今後ますます必要となってきます。タイトル「宗像、カタロウ」には、市民一人ひとりがまちづくりの主役であり、宗像のまちづくりについて一緒に「語ろう」、宗像のまちづくりに一緒に「かたろう(加わろう)」という意味が込められています。

URL <https://www.city.munakata.lg.jp/040/050/110/index.html>

※「市民参画・協働の取組について」を選択



# アンケートプレゼントコーナー

赤馬館で使える  
“赤馬館商品券”  
1,000円分をプレゼント!

※チケット有効期限が2021年3月31日(水)までとなっております。ご了承ください。

右記QRコードからアンケートに答えていただいた人に抽選で赤馬館で使える商品券をプレゼント! 当選者の発表は2021年2月上旬、賞品の発送をもって代えさせていただきます。  
赤馬館ウェブサイト▶<https://www.akamakan.info/>

抽選で  
**10名**

応募締切は  
2021年1月31日(日)  
アンケートはこちら!!



¥0 TAKE FREE



PENTAGON 宗像

ふらぐバックナンバーはこちらから!

<https://pentagon67.com>

